



**基準不適合発生箇所**

イグニッションスイッチ内の接点に塗布したグリスの成分が不適切なため、イグニッションスイッチオフ時の操作をゆっくり行くと、接点部のアーク放電時間が長くなり、接点部の温度が上がるとグリスが硬化し、その操作が繰り返されると、接点に亜酸化銅が生成されて、接点部に導通不良が生じるものがある。そのため、走行時の振動等で接点が導通不良となり、エンジンが停止し、再始動できなくなるおそれがある。また、接点が局部的に発熱し、接点裏側の半田が溶け、最悪の場合、運転者の足に落ちて火傷をするおそれがある。

改善の内容 全車両、イグニッションスイッチを対策品と交換する。

注：  は交換部品を示す。